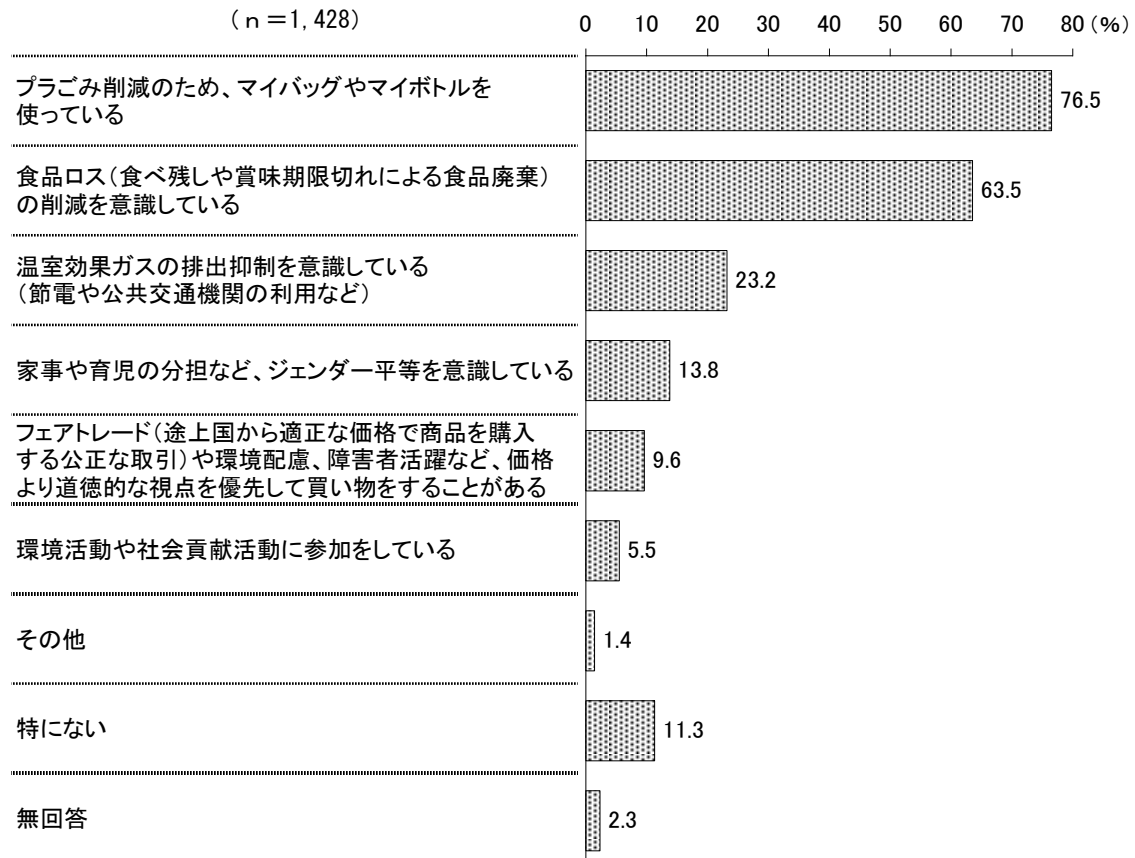


(3) SDGsの達成に向けて実践していること

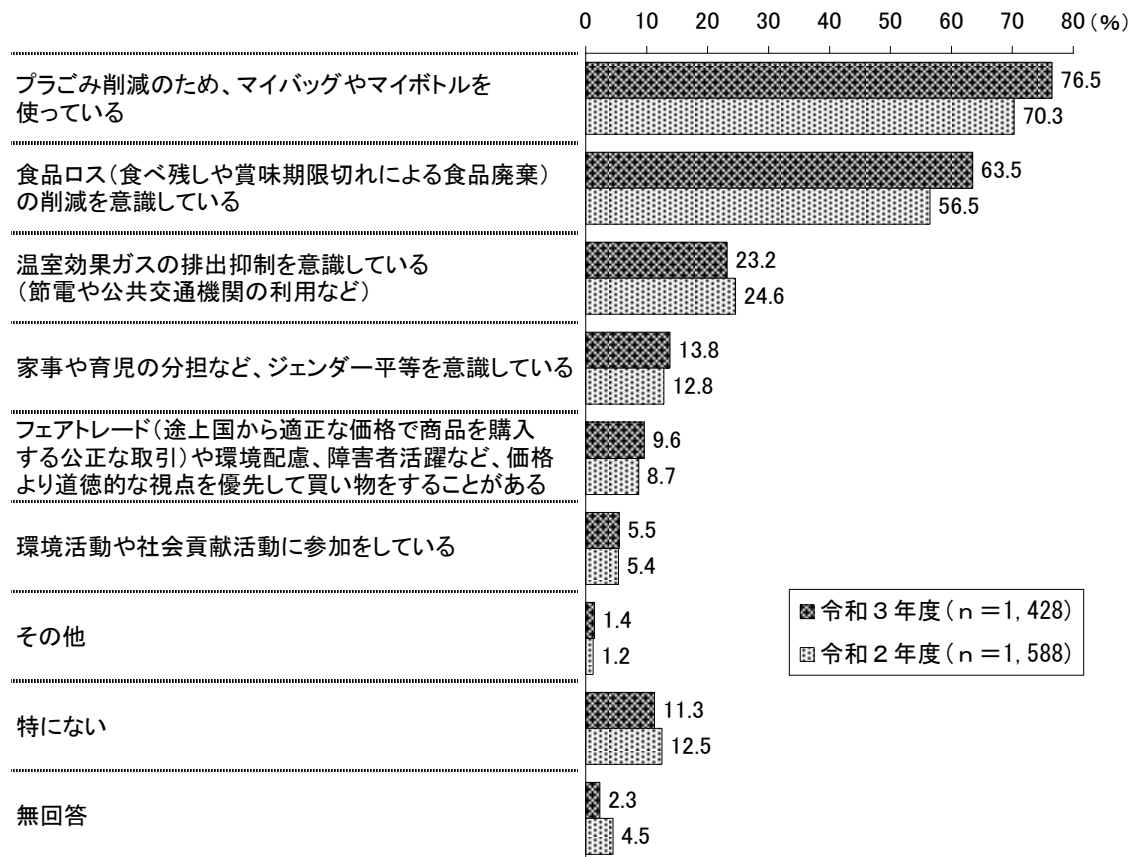
問7 SDGsの達成に向けては個人でも取り組めることがあります、あなたが実践していることはありますか。(〇はいくつでも)



SDGsの達成に向けて実践していることをたずねたところ、「プラゴミ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」(76.5%)が8割近くで最も高く、次いで、「食品ロス(食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄)の削減を意識している」(63.5%)、「温室効果ガスの排出抑制を意識している(節電や公共交通機関の利用など)」(23.2%)、「家事や育児の分担など、ジェンダー平等を意識している」(13.8%)と続いている。

＜経年比較＞

過去の調査結果と比較すると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は令和2年度より7.0ポイント、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は令和2年度より6.2ポイント、それぞれ増加している。



※「フェアトレード（途上国から適正な価格で商品を購入する公正な取引）や環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をする」とは、令和2年度では「フェアトレードや環境配慮、障害者活躍など、価格より道徳的な視点を優先して買い物をする」となっていた

<性別・性／年齢別・区別結果>

性別でみると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」で18.2ポイント、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」で15.2ポイント、それぞれ女性が男性より高くなっている。

性／年齢別でみると、「プラごみ削減のため、マイバッグやマイボトルを使っている」は女性50～59歳で9割を超えて高くなっている。

区別でみると、「食品ロス（食べ残しや賞味期限切れによる食品廃棄）の削減を意識している」は南区で6割半ばと高くなっている。

